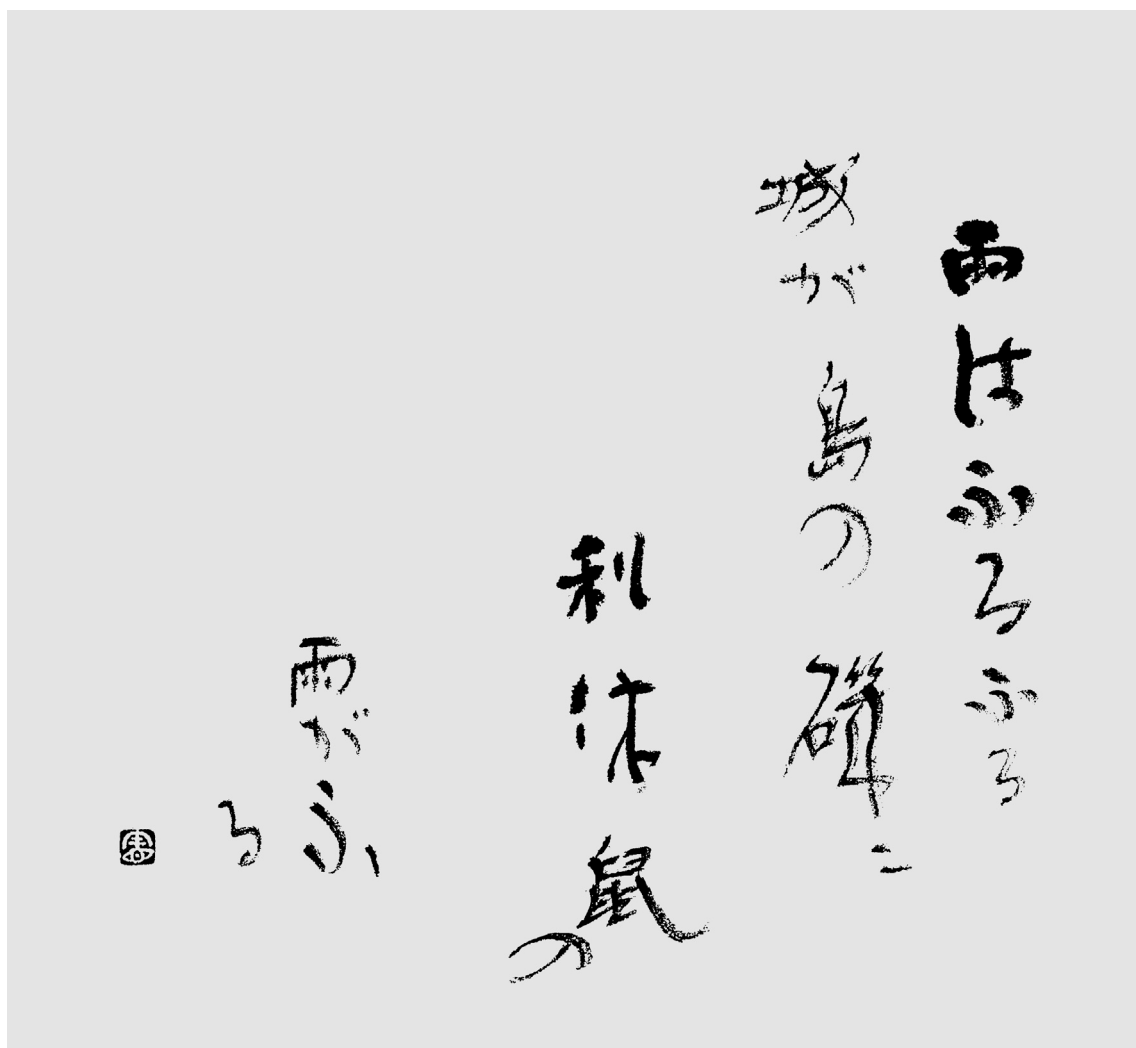


漢字かな交じり文を書く(6)

締切り 六月二十四日(必着)



奥村憲照先生書

マッチ棒使用

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎今月のお手本は、マッチ棒で漢字用半紙に書いてあり、潤渇の変化が豊かです。皆さんもそれぞれに工夫してみてください。

◎誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※出典 北原白秋詩「城が島の雨」

※落款(氏名)も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。(雅印のみ可)

□作品の出し方

▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

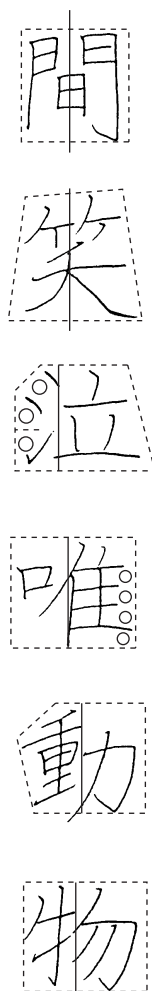
▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。
基本点画をしっかり練習しマスターすることが上達の第一歩です。

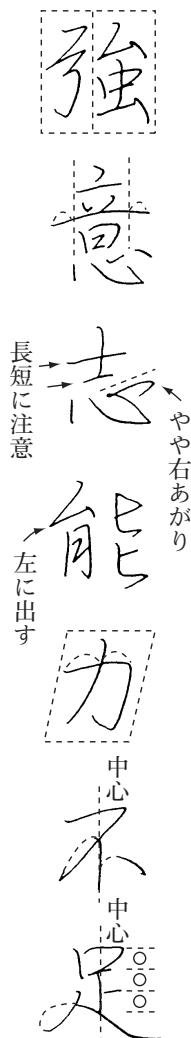
人間こそ笑い
かつ泣くところの
唯一の動物である

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



	能	強
	力	い
フ	不	意
ラ	足	志
ン	な	に
ス	し	は

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★強い…（書体＝行書）

フランスの格言

ラテン語の格言に由来する言葉で、ヨーロッパ各国に類似のものが見られます。

「強い意志を貫徹、実行不可能なものはない。やる気があれば何でもできる」という意味ですが、日本にも「精神一到何事か成らざらん（朱子）」という同義の名言があります。

◆7月課題予告（楷書）

どんな教訓を
与えるにせよ
簡潔にしたまえ

★人間こそ…（書体＝楷書）

ハズリット（七六～八三〇）

イギリスの批評家・随筆家

人間も動物の一種です。他の動物同様、本能の部分をもっていますが、泣いたり笑ったりする喜怒哀楽という細やかな感情をもっているのは人間だけなのです。それがすべての文化・芸術のもととなって高度な文明を築くこともできたのです。

◆7月課題予告（行書）

力と美しい姿とは

青春の花であり

分別は老年の花だ

▼教範・書範＝楷書

▼師範＝行草または草書

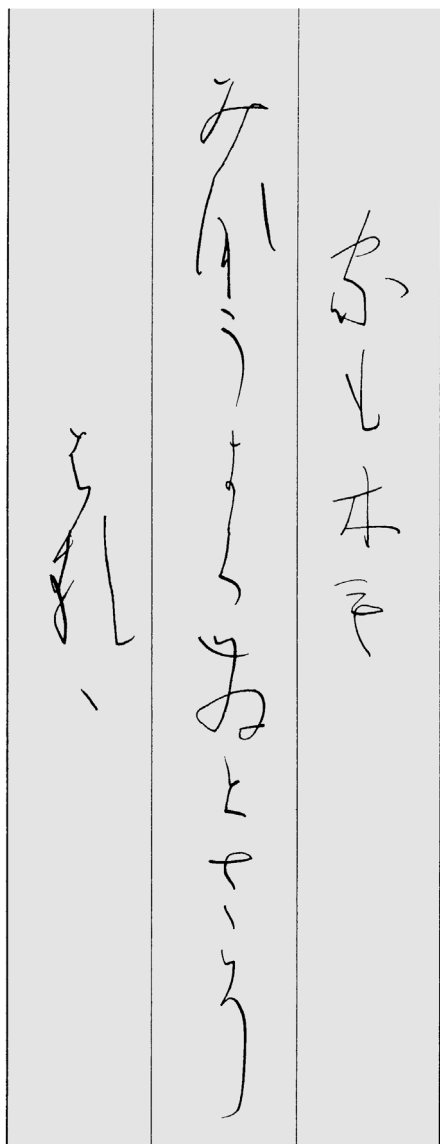
一般部かな課題

締切り 6月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

家も木も皆萍とさそはるゝ
毛み那う支く散 曾者類

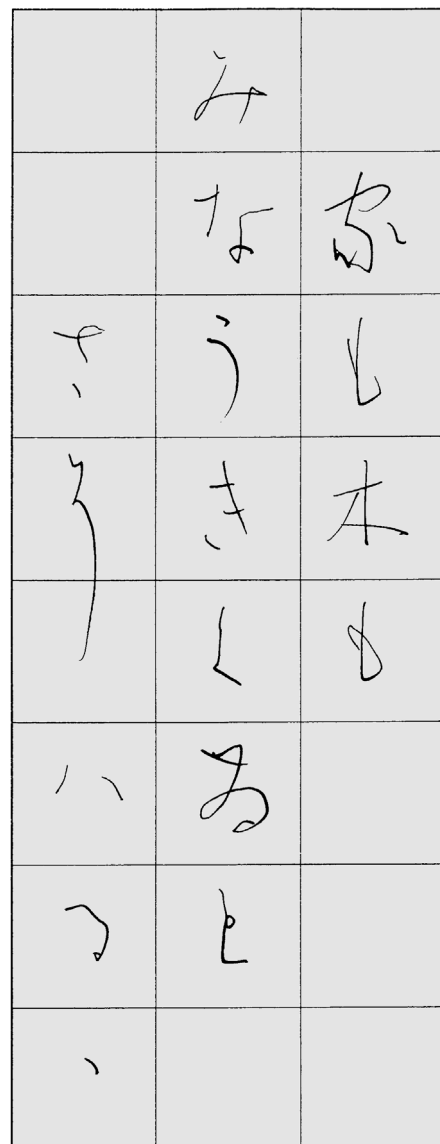


こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

家も木も皆萍とさそはるゝ
みなうきく散 曾ハ



こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

家も木も皆萍とさそはるゝ
うきく散

(正岡子規)

〔出典〕日本文学全集69 現代句集

〔解説〕

家

家 家 家 家

散

散 散 散 散

曾

曾 曾 曾 曾

・思いきって長くするのもおもしろい。

◎かなは省略されていく姿を思いえが
きながら書くとういでしょう。

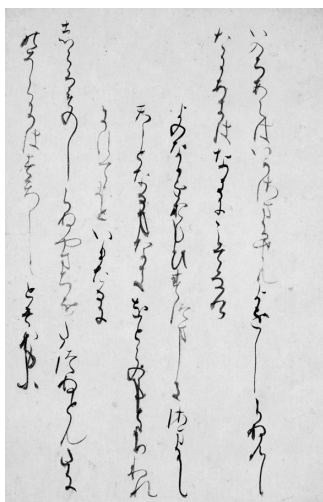
◆7月課題予告

山藤や短き房の花ざかり
やまふぢ

(正岡子規)

〔古筆参考〕

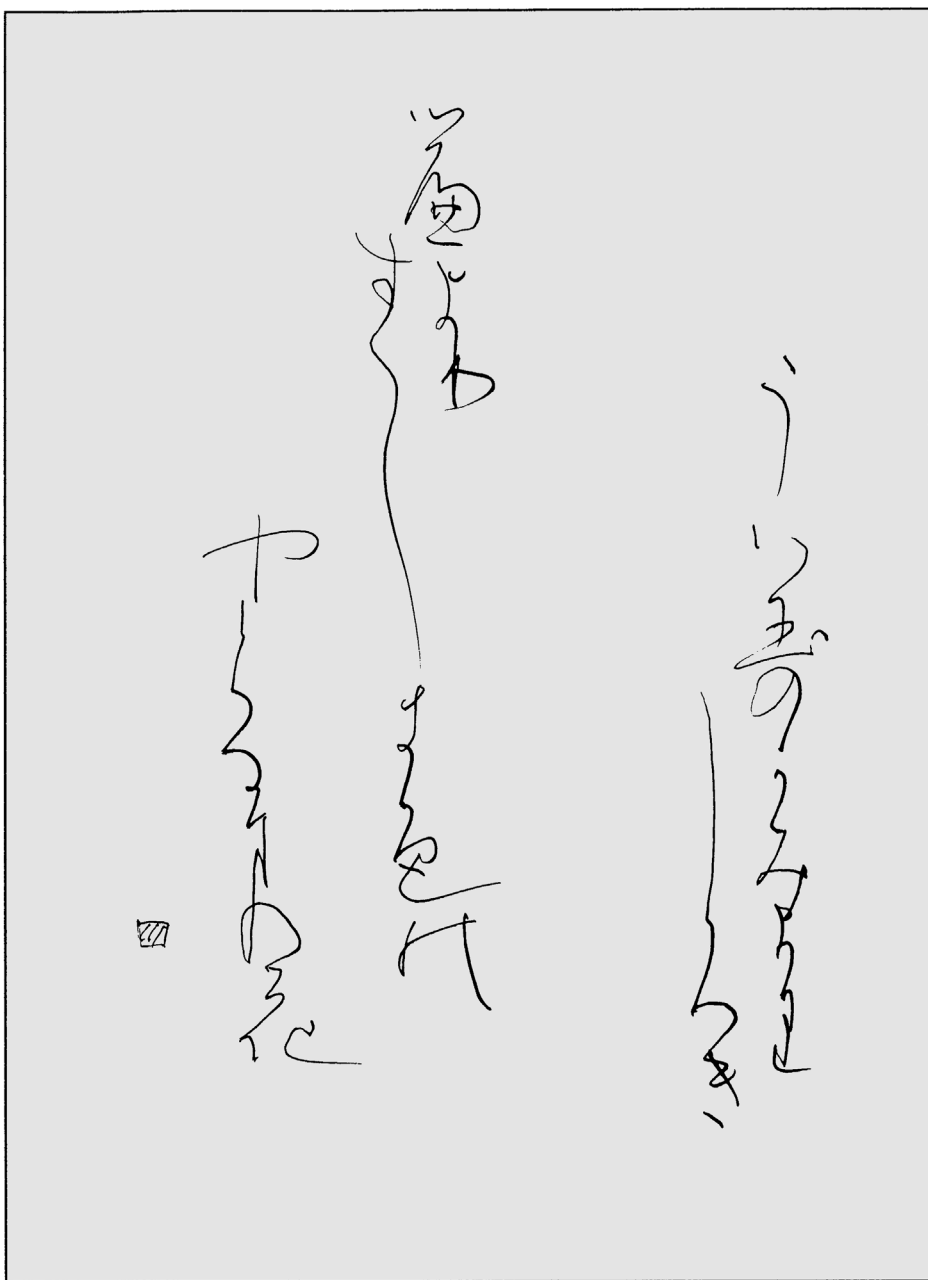
いずみ しき ぶ ぞくしゅうぎれ
和泉式部続集切



いのちあらばいかさまにせんよをしらぬむし
だにあきはなきにこそなけ
よのなかを、おもひすつまじきさまにし
て、ことなる事なきをとこのもとより、われ
にすてよといひたるに
しらくものしらぬやまぢをたづぬともたに
のそこにはすてじとぞおもふ

締切り 六月二十四日（必着）

築瀬舟香書

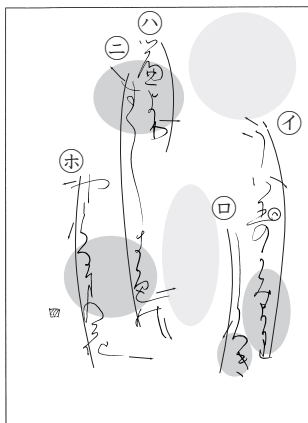


うば玉の髪より白き簾より涼しき
色の矢ぐるまの花

〔歌意〕若い頃は、真っ黒だった自慢の髪も白くなってしまいました。その髪よりも白いすだれ、なおそれよりも涼しい色をして矢車草の花が咲いています。

〔出典〕名歌即訳 与謝野晶子

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と③、②と④、③と④、④と⑤、それぞれ呼応。
- ②と③で余白を包む。
- 一行の中の密の部分・密の動き注意。
- 大きな間大切。
- ノの方向、○の位置注意。

打楽器的な間の美

「放ち書き」は今月の書き出し「う八玉」は連綿線を廃しリズムに乗って意連を駆使しあかも太太鼓を打っているような感じで書かれていて、空間の白さが一際鮮やかになるのです。作品の中の放ち書きの重要性を考えてみたいものです。

◆7月課題予告

夏まつりよき帯むすび舞姫に
似しやを思ふ日のうれしさよ

（与謝野晶子）

締切り 6月24日(必着)

お義母^{かあ}さん、いつもおいしい野菜を送って頂きありがとうございます。子供達も、おばあちゃんが育てたのは最高とよく食べてくれます。夏休みには家族揃って遊びに行きますのでよろしくお願いします。

◎手本は水性ボールペン使用

お義母さん、いつもおいしい野菜を送って頂きありがとうございます。子供達も、おばあちゃんが育てたのは最高とよく食べてくれます。夏休みには家族揃って遊びに行きますのでよろしくお願いします。

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

1秒で地球を7周半する光の速度
でも、太陽まで8分20秒かかる。

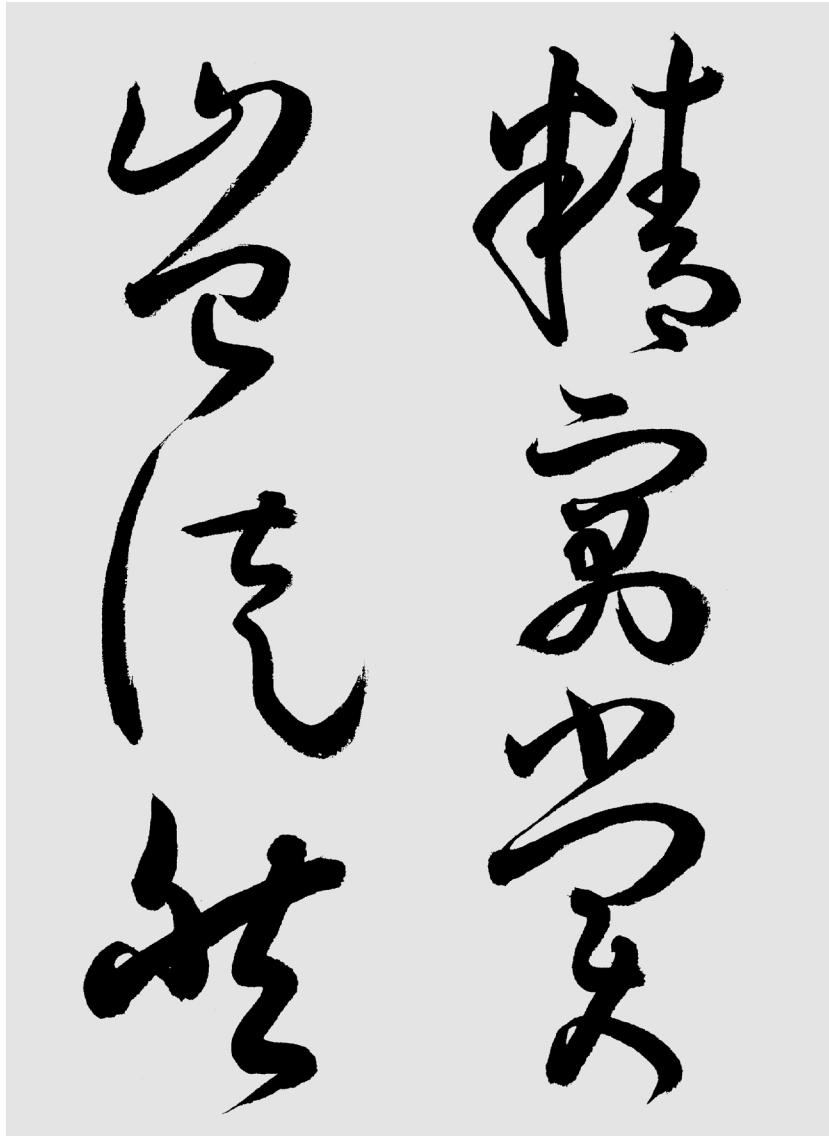
広島県尾道市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 6月24日（必着）

精
寓
賞
豈
徒
然

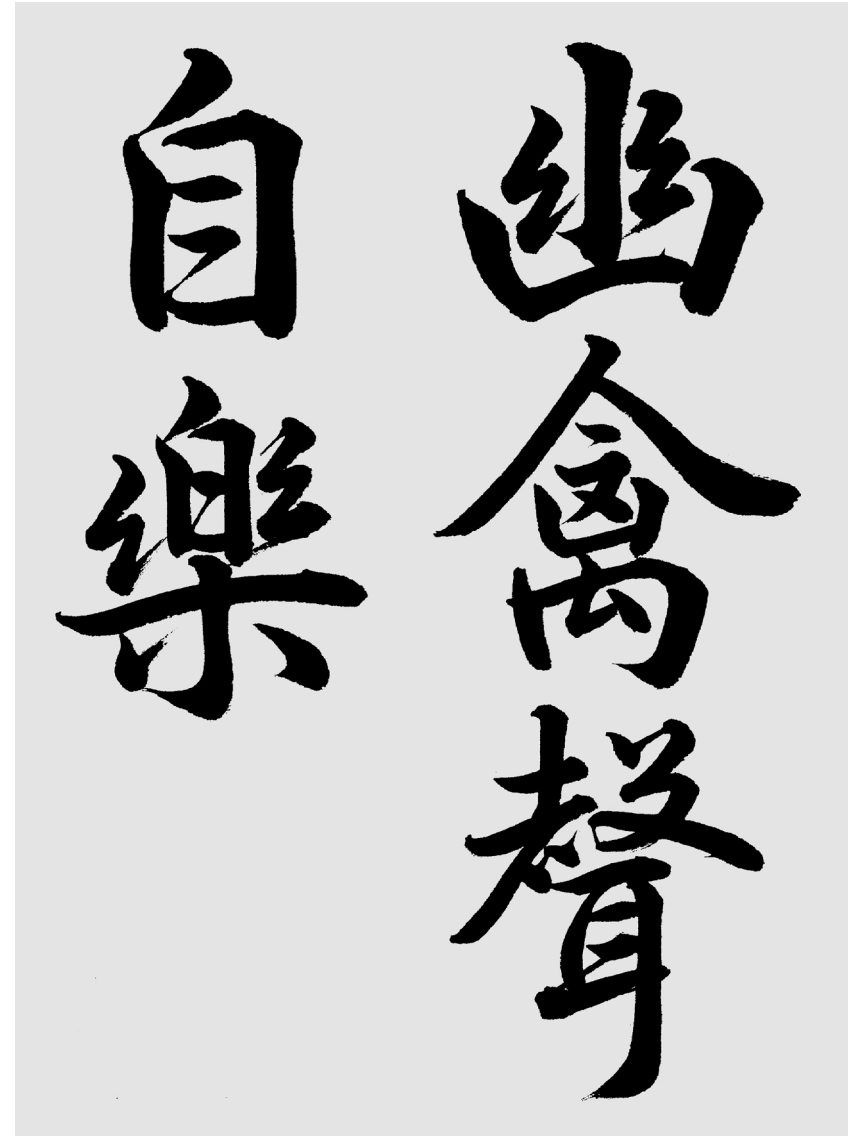


〔出典〕書譜（687）〔筆者〕孫過庭（648?～703?）

〔読み〕精を（そん存し）賞を寓す、豈に徒然ならんや。

準初段から師範まで

奥
村
暢
之
臨



〔読み〕ゆうきんこえ幽禽聲自ら楽し

〔大意〕幽境に静かに鳴く鳥の声は、自ら楽しい。

新入から1級まで（行書）

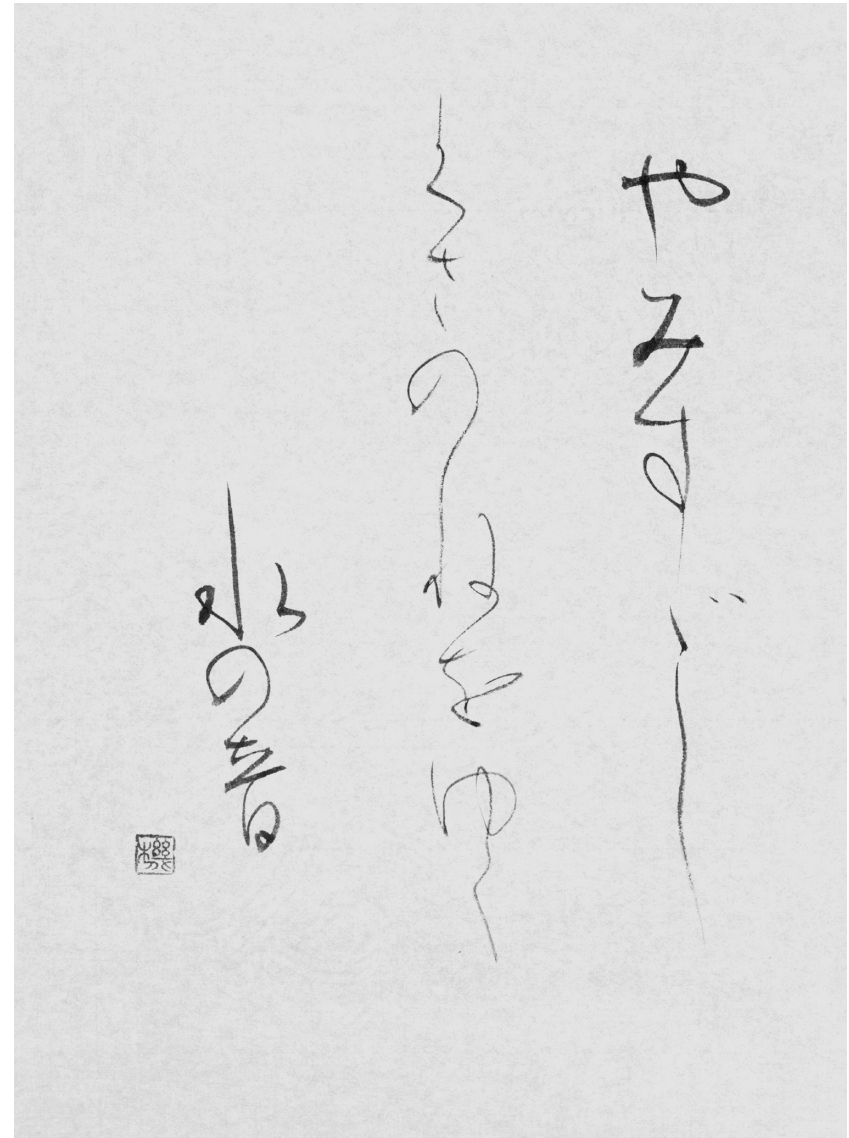
澤
静
雨
書

一般部毛筆かな課題

締切り 6月24日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書



〔出典〕 石井露月

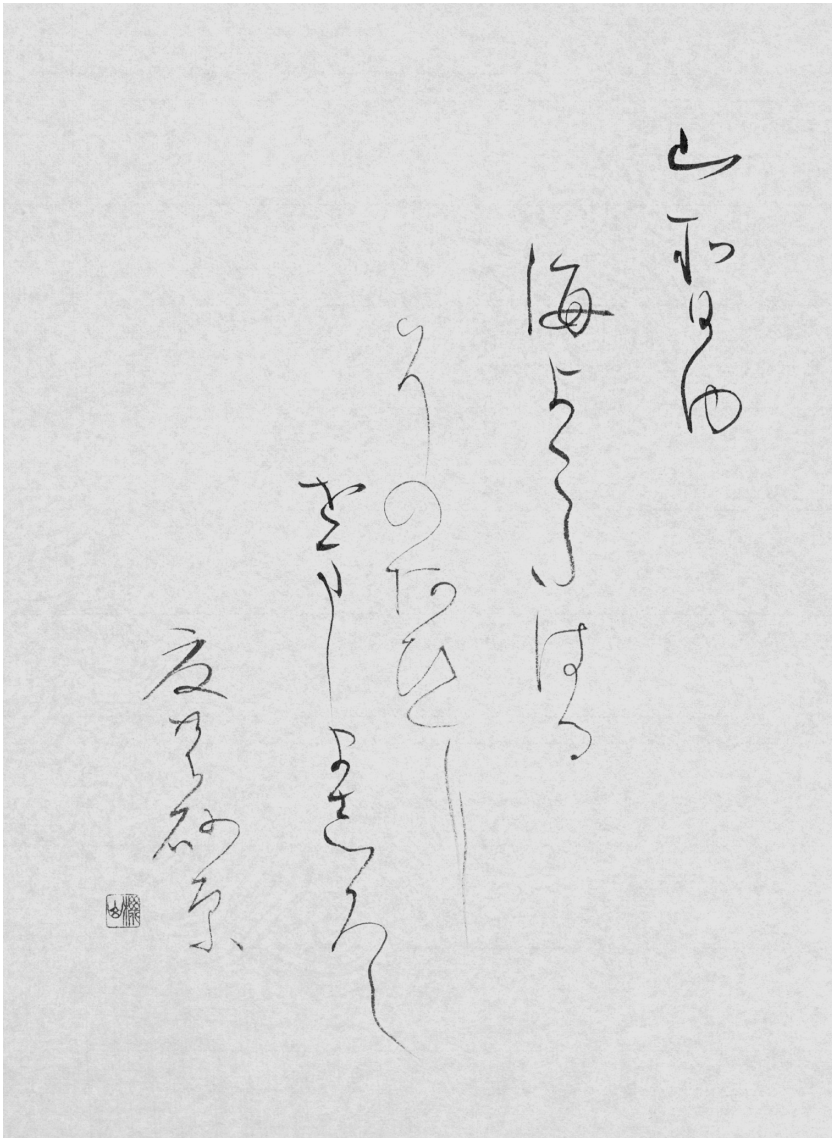
〔句意〕 闇の底からさらさらと草の中を流れる音が聞こえて来る。その音が涼味を感じさせる、というのである。夜の散策であろう。爽涼の感がある句。

※検定試験1級コースを兼ねる。

準初段から師範まで

闇涼し草の根を行く水の音

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



※検定試験三段コース以上を兼ねる。

山はそびえたち、海はひろびろと広がっている。その間にはさまれて、狭く真っ白なことよ、夏のこの砂原は。

〔出典〕 若山牧水

〔歌意〕 山はそびえたち、海はひろびろと広がっている。その間にはさまれて、狭く真っ白なことよ、夏のこの砂原は。

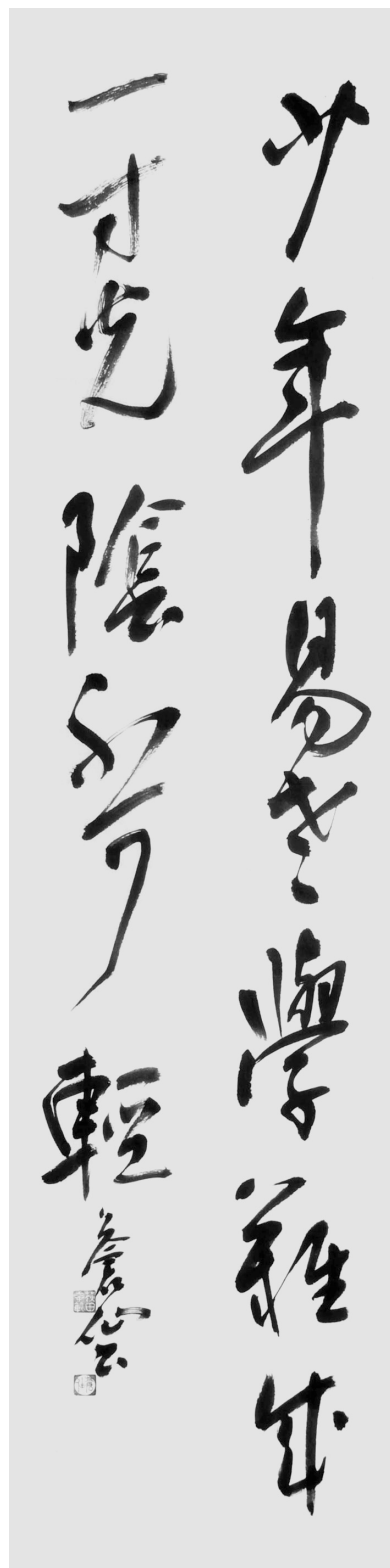
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 六月二十四日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）

荻田蒼仙書

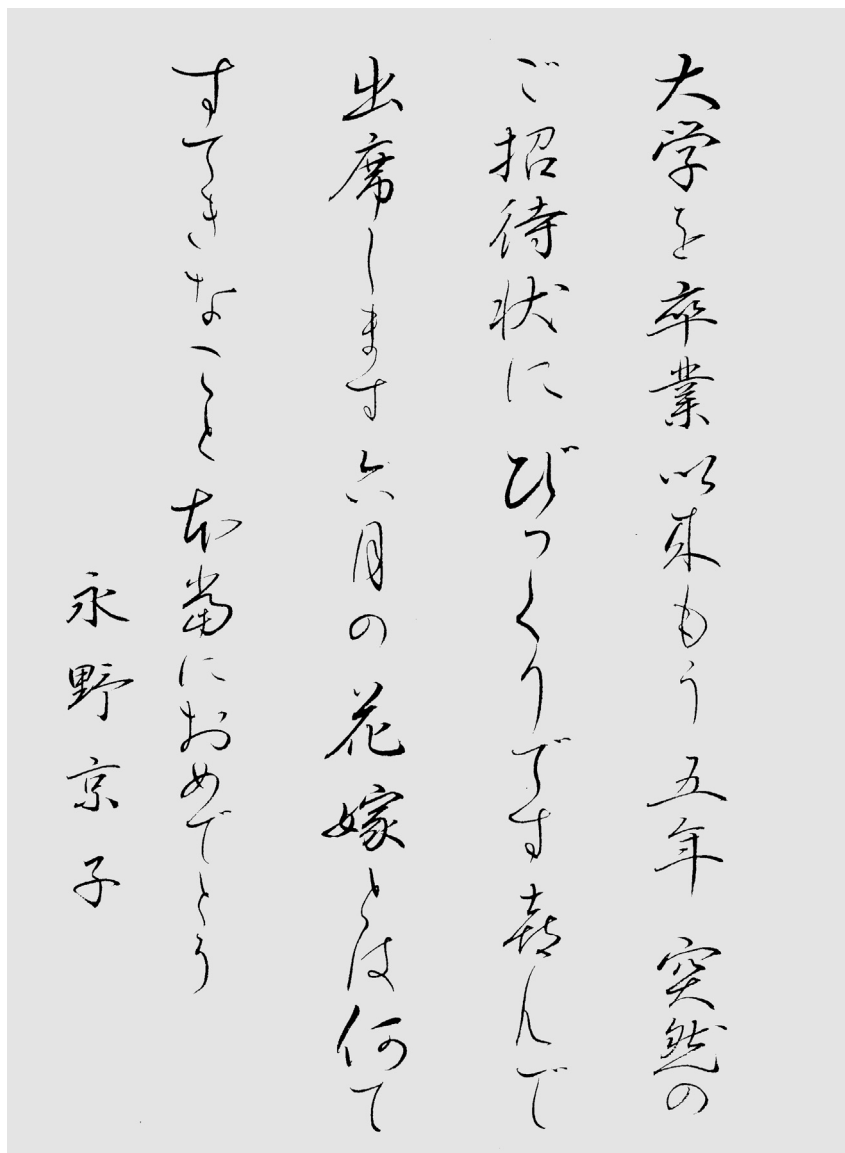


少年易老学难成 一寸光阴不可轻 朱熹
〔大意〕少年とてすぐ年をとってしまうが、学問はなかなか成就しない。故に、ほんのひと時も大切にしてお勉強に励まなければいけない。初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔解説〕

個々の形に気を使い過ぎると、大きさ、墨量の変化など揃いがちになり、平凡な作品になります。変化と統一の見方をもとにじっくり眺めてみましょう。上達には目が先行すること。

書 兆 春 宮 大



半紙（334mm×240mm）

（ご自分の氏名）

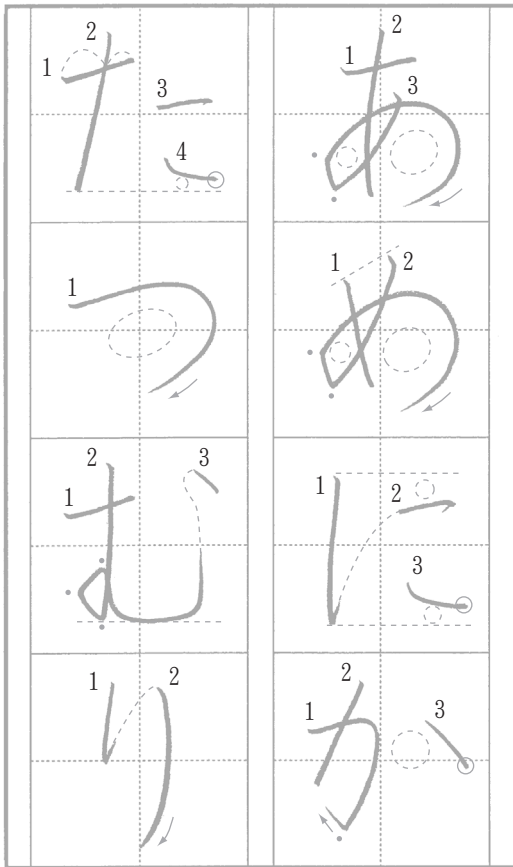
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

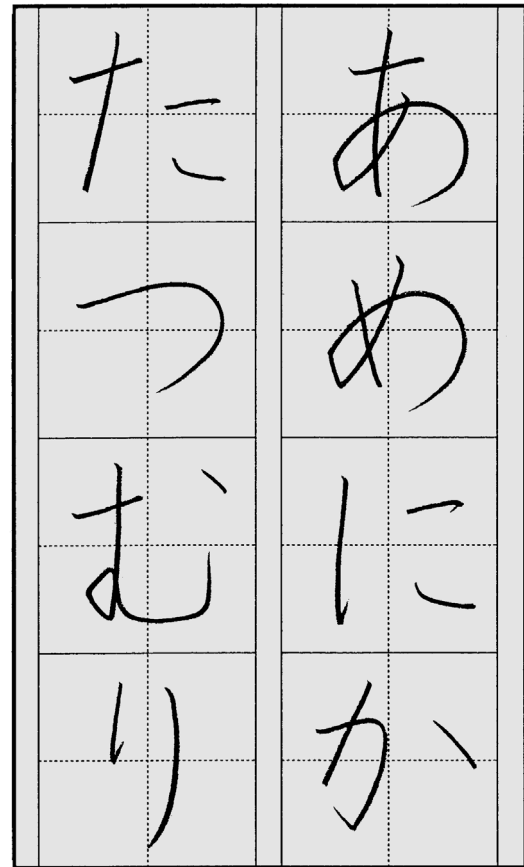
※検定試験三段コースを兼ねる。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



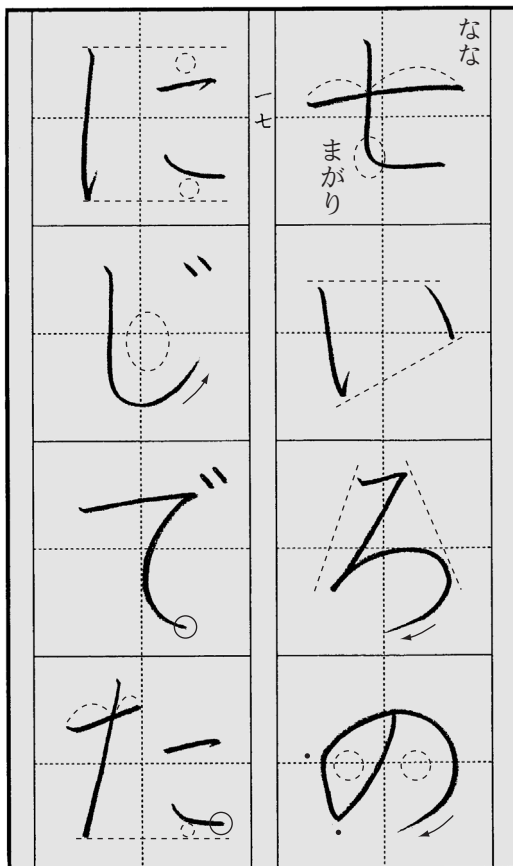
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



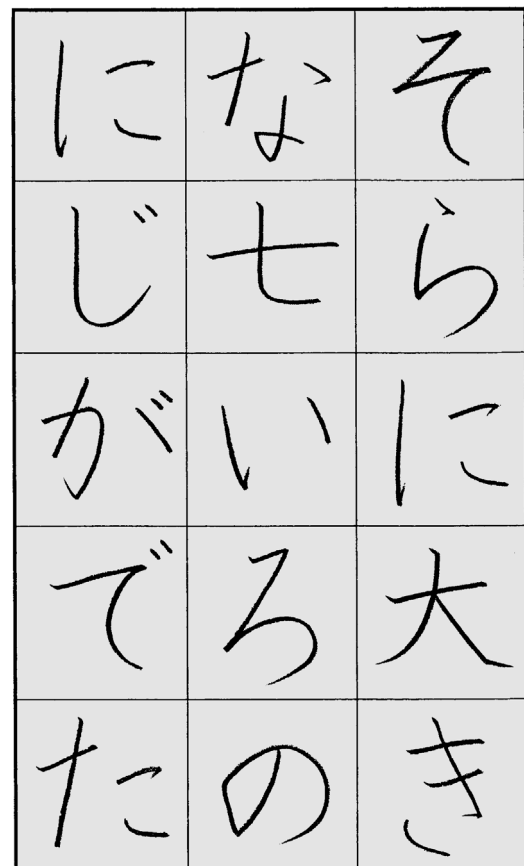
よ
う
年

幼年〜小三年
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

る	形 かたち
白 しろ	を
い	か
雲 くも	え

新入1級

い	を	自
ひ	か	ゆ
つ	え	う
じ	る	に
雲	白	形

準初段以上

小二年

準初段以上

子	牛 ギユウ
を	肉 ニク
注 チュウ	ラ
文 モン	ン

新入1級

た	ラ	お
つ	ン	昼
を	子	に
注	の	牛
文	配	肉

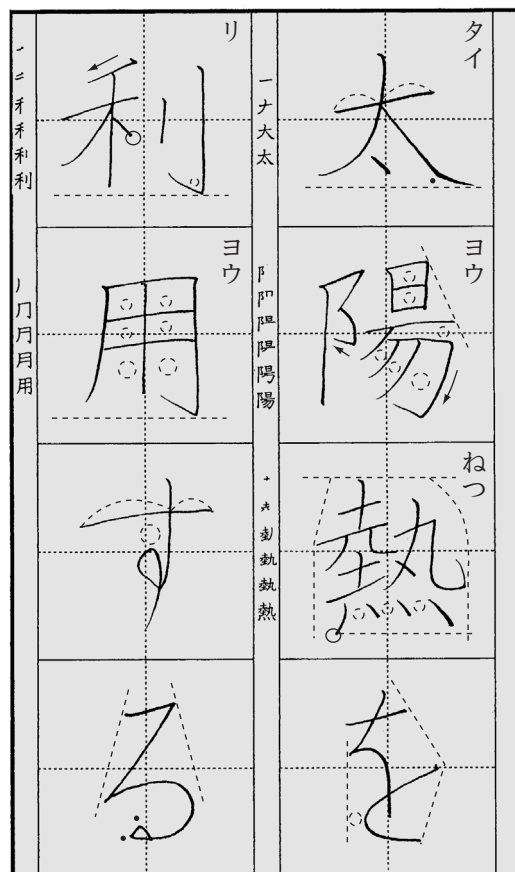
準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小 四 年



(全員)

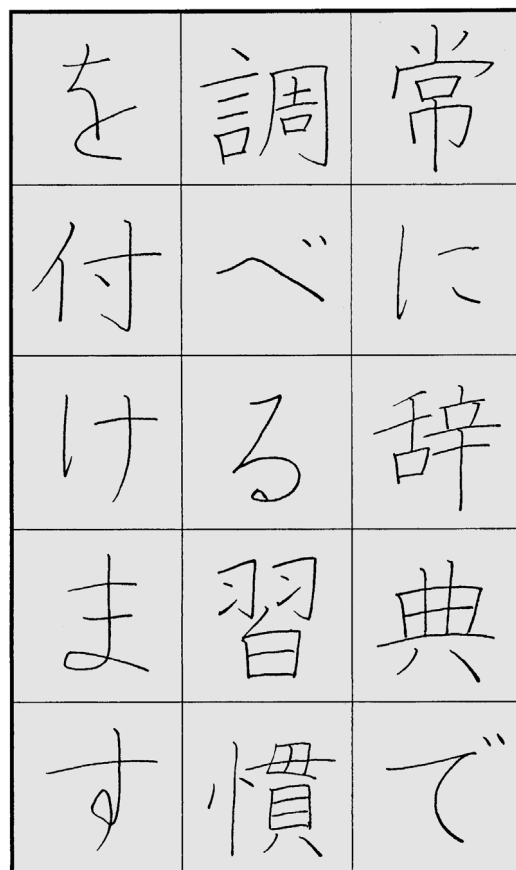
新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- * 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、いじけないよう、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- * 六月締切り分までは、この方法を続けます。
- * ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習をしましょう。
- * 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由（黒色に限る）

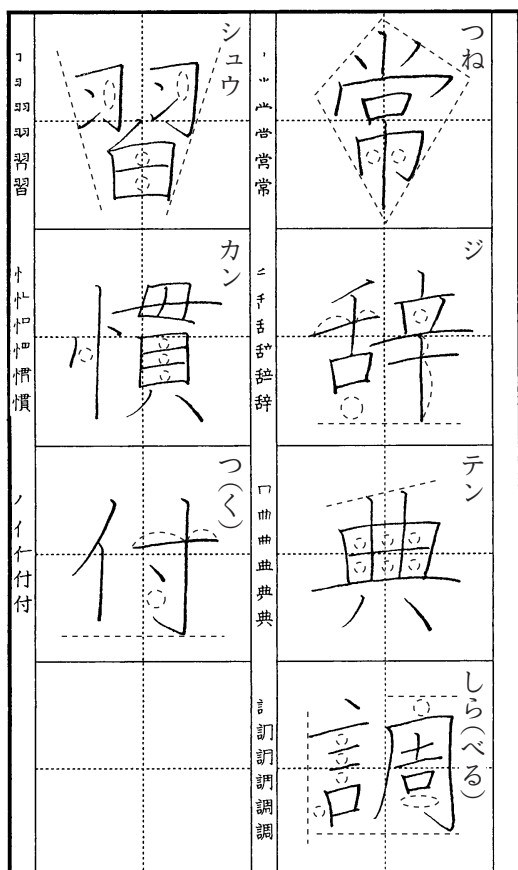
小 五 年



(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説（よく見て習いましょう）



小四以上 須田一葉書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

キヨク 月胸胸胸胸	むね 胸
あ(う) 合	は(る) 張
コウ 行	ゲン 元
シン 進	キ 氣

解説(よく見て習いましょう)

小六年

合	氣	胸
わ	よ	を
せ	く	張
行	曲	り
進	に	元

(全員)

◎お手本は、つけペンで書きました。

に	用	小
入	紙	説
れ	を	の
送	封	原
る	筒	稿

中二・三年 (楷書)

中一年 (楷書)

日	作	健
運	る	康
動	た	な
す	め	体
る	毎	を

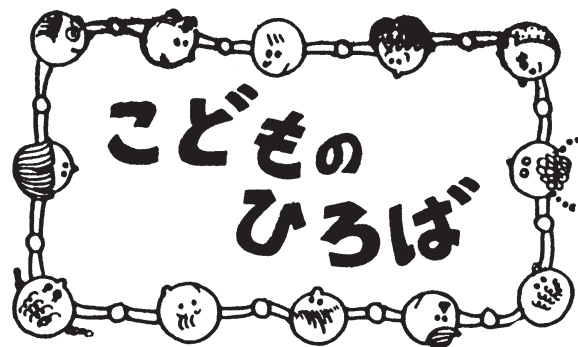
▼小三年以下の課題

はっ 服 とり 部 ゆう 祐 こう 光 書

雨 あま	し	ち	葉 は	あ
や	ず	よ	っ	じ
ど	か	う	ぱ	さ
り	に	ち	の	い
		よ	う	の
		が	ら	
			で	



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 6月24日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

やま 山 かど 門 せい 清 せん 扇 書

父 ちち	単 たん	ネ	プ	父 ちち
に	身 しん	ク	レ	の
贈 おく	赴 ふ	タ	ゼ	日 ひ
り	任 にん	イ	ン	の
ま	中 ちゅう	を	ト	
す	の		に	



◎お手本はつけペン使用

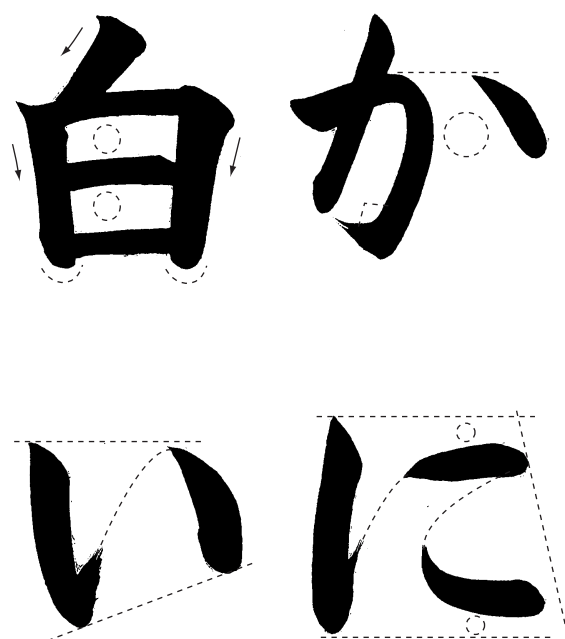
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年

玉樹小
華書



小五

辞典

小三

牛肉

陽

牛

そり方注意

長め

辞

肉

典

太

小四

太陽

小三、小五年

水野香竹書

中二・三

原稿用紙

小六・中二・三年

奥村暢之書

行進曲

小六

康 行 進 健
稿 紙

長めに
方向のちがいに注意
中心よりやや右に
広く

健康な体